

森林官の一日

下越森林管理署 佐和田森林事務所

森林官 田中英司



島内のマツクイムシ被害状況調査

最後まで生息していたことから、佐渡の自然は豊かであることも言えるでしょう。

当所の国有林は旧トキ保護センター周辺を昭和37年度から昭和45年度にかけて約1,000ヘクタール買入れたものです。また、この他に約800ヘクタールの官行造林地があり、合計で約1,800ヘクタールの面積を管理しています。

森林官は森林の整備・調査管理・

地元関係機関と

の打合せなど、

林野庁の職場として現場の最前線

で様々な仕事を幅広くこなしています。

最近

は森林調査（収穫調査）にも多くの時間を割いています。

1本、木を測定する調査はなかなか体力を使いますが、緑に囲

まれている感じが、緑に囲



トキの営巣木調査

まれた自然の中での作業はつい時間を忘れてしまいます。

自分の管内の木が販売され、建築材など有効に使われているのを見ると大変気持ちがよいものです。これも、私たちの先輩や林業関係者の地道な手入れがされたものであることも忘れてはいけません。

木を育てるためには長い時間がかかります。下刈り・除伐・間伐などの定期的な手入れは絶対に欠かせません。これからも山を歩き、森林を見て将来どのような森林にするかと言うことを常に考えながら森林作りに取り組んでいきます。

《国有林の取り組み》

現在、トキの個体数は、佐渡トキ

保護センターで

の人工増殖事業により、98羽

（18年9月現在）

となりました。

平成20年には、

自然放鳥による

野生復帰が予定

されています。また放鳥から7年後の平成27年頃までに、小佐渡東部地域に60羽のトキを定着させる目標があ



特別天然記念物「トキ」（環境省提供）

ります。

そのため佐渡島内では現在、トキの野生復帰に備え各関係機関によるエサ場作りなどの生息環境の整備が盛んに進められています。

トキは主にマツの木に巣を作り、雛を育てていたことが分かっています。

しかしながら佐渡島内にもマツクイムシの被害が発生し、多くのマツが枯れてしまいました。そのため国有林では平成15年から開始したトキの営巣木等保全整備事業により、トキの営巣木となりそうな木を選定し、必要に応じて薬剤を注入しマツの保全に努めているところです。

放鳥したトキが、一日も早く大空を舞い、無事に野生復帰してくれることを願っています。